



発行 神戸みなとライオンズクラブ (第50期)

The Final Letter vol.21

最終号

2019年6月20日
第1215回例会
第50期年次例会

会長挨拶

団 英男

年次報告は別紙理事会レターでいたしますので、そちらをご覧くださいたくとして最終例会のご挨拶をこの場でいたします。

今期は様々な取り組みをしましたが、年次例会も移動例会として今日はアール・ヴァレンティノで開催させていただきました。みなさんと一緒に楽しい語りと食事を楽しみたいと思います。今日は私にとつて十数年ぶりのゴルフでした。(この原稿を書いている次点ではまだ結果はわかりませんが)

若い頃は会社の同僚やお取引先のゴルフコンペ、またライオンズクラブに入会してからクラブや記念ゴルフ大会に参加させてもらいました。ある日を境に完全にやめました。理由はいままで叩いたことのないスコープでシヨックだったことです。そろそろ引き際だと思っていたのですが、今回は数田さんの熱心なお誘いで参加させていただきました。さて、結果は？(笑)

新会員研修会

去る6月10日、神戸市勤労会館特別会議室において、GLT担当役員である松本第一副会長(指導力育成委員会)による直近三年以内の会員を対象とした研修会が開かれました。講師にはL堀口・L団が務めライオンズの歴史や組織、ライオンズ用語の説明の後、チームにわかれ「会長になったら何がしたい?」「会員増強はどうすればよいか」のテーマのワークショップがあり、会員はとても活発な意見を出し、二時間の研修会が終了しました。その後場所を変えて親睦会があり、さらに突っ込んだ会話となりました。神戸みなとLC合併後、初めて多くの新会員を対象とした研修会が開かれたこと、今後十年の目標が再確認できる研修会となりました。

参加者(敬称略) 大島 大田 櫻木 吉原 安田 八塚 山崎 和氣)



指導力育成委員会
委員長 松本
副委員長 吉田
委員 和氣
アドバイザー 団



LCIF理事長感謝状



今期みなさんのご協力でクラブとしてLCIFに多額の寄付ができました。ナレッシュ・アガワル理事長よりクラブに対して感謝状が届きました。5月第二例会でご披露しましたが、最終例会のレターでもお知らせいたします。

最後の発行に際して

とうとう例会レターも最終号になりました。今期から始めたこの例会レターと理事会レターはクラブのデータをまとめて後世に伝える紙媒体としてスタートさせました。

当初縦書きのレターでしたが、読みやすさを考えて横書きに変更しましたが、最終号は新聞の王道らしく縦書きにします。一年間ご愛読をいただきましたこと厚くお礼を申し上げます。多くのみなさんから今期の取り組みに対して激励の言葉をいただきました。来期も継続する方向で考えてもらいたいと思います。

マーケティング・コミュニケーション委員会
委員長 山腰 ほずみ

発行：2019年6月20日 第1215回例会
神戸みなとライオンズクラブ第50期
発行責任者：会長 団 英男
マーケティング・コミュニケーション委員会

ライオン誌日本語版ウェブマガジンに掲載されました

速報!

LION
ライオン誌日本語版ウェブマガジン

結成50周年記念事業
少年柔道大会支援

兵庫県・神戸みなとライオンズクラブ

#青少年

<https://www.thelion-mag.jp/1906ar01>



元号が新たになった翌日の令和元年5月2日に、神戸で小さな少年柔道大会が開催された。

「第5回神戸市小学生メダル争奪親善柔道大会」と銘打った大会には、神戸市内の警察署柔道場等で活動する柔道チームから100人の少年少女柔道家たちが参加。この柔道大会には、小学2年生から6年生の児童で、今まで一度も入賞経験の無い選手に限るという参加資格が設けられており、趣旨に賛同した神戸みなとライオンズクラブ（団英男会長／42人）が、結成50周年記念アクティビティとしてバックアップした。

本大会の主催は、前年、柔道世界チャンピオンになった阿部一二三・詩兄妹を輩出したチームで、大会で入賞出来ない選手にもこの大会を通じて勝つことの喜びと自信をつけてもらおうとの思いが背景にある。6年生の女子選手の元気な宣誓の後、小学2年生の選手から試合がスタート。小さな選手が真剣に技を掛け合う姿は微笑ましく、学年が上がるにつれて技が決まった時の迫力が増してきた。

大会翌日に、選手宣誓をした児童の保護者からメッセージが届いた。「我が子の選手宣誓の写真がうまく撮れてなく、もし写真を撮られていたら頂きたいのですが」との問い合わせだった。偶然、クラブ会長が選手宣誓の動画を撮影しており、その映像を提供すると、保護者の方から次のようなメールを頂いた。

「幼稚園児から柔道を始め、チームで一番の古株ですが、これまで1勝もしたことありません。来年には中学受験があるので、これが最後の試合になります。今まで元気に続けてくれたことに感謝して、涙を堪えて選手宣誓を見ていましたが、写真がうまく撮れていなかったので動画を頂き感謝しております。ライオンズクラブの方々から頂いた参加賞のタオルも我が子は一生大切にしたいと思います。本当にありがとうございました」

それは、ライオンズクラブとして大会の支援が出来たことをメンバー全員がうれしく感じた瞬間だった。大会に参加した子どもたち100人に、100のストーリーがある。柔道普及に深く関わった嘉納治五郎生誕の地神戸で、心温まるアクティビティとなり、来年の東京オリンピックが更に楽しみになった。

2019.06更新（青少年健全育成委員長／大島良彦）

